



南阿蘇村立南阿蘇中学校 学校だより

ハーモニー



R4. 10. 14(金) No.22 小柳 弘志

学習成果発表会に向けて

10月21日(金)、学習成果発表会を行います。

今週、水曜日にはプレ合唱コンクールを行いました。

また、各学年の総合的な学習の時間等で発表準備や展示作品の準備を行っています。当日の正式なプログラムは現在作成中ですが概要をお知らせします。

- 10:40～10:55 開会行事
- 10:55～11:15 農業体験学習発表(1年生代表者) ②〇
(合間10分)
- 11:25～11:45 職場体験学習発表(2年生代表者) ②〇
(合間10分)
- 11:55～12:15 防災・人権・修学旅行に関する学習発表(3年生代表者) ②〇
(移動15分)
- 12:30～13:35 昼食・昼休み ⑥5
(移動10分)
- 13:45～13:55 午後の部開会行事 ⑩
- 13:55～14:10 2年合唱 ⑮
(合間10分)
- 14:20～14:35 1年合唱 ⑮
(合間10分)
- 14:45～15:10 3年合唱 ⑳
(合間15分)
- 15:25～15:35 講評・成績発表 ⑩
- 15:35～15:45 閉会行事 ⑩



(合唱の練習風景)

現在、学習成果発表会当日の保護者様の参加希望を集計中です。参加希望者多数になった場合は、前年の合唱コンクールと同様に、入場に対する制限を行います。詳しくは後日お知らせします。

全国学力学習状況調査結果について

9月27日の新聞記事に全国学力学習状況調査結果が出ていました。

熊本県教育委員会が公表した地区別平均正答率は左表の通りです。教科は小6が国語・算数・理科。中3は国語・数学・理科。県内は約2万9千人が受けています。このうち全国平均を上回ったのは小6は宇城、玉名、山鹿市で全3教科と天草の算数と理科、阿蘇の理科。中3は山鹿市の国語と理科、阿蘇の理科のみでした。県教委は「テストの目的は、平均点そのものではない」とした上で「結果を基に児童生徒が苦手とする分野を分析し、一人一人にどう対応して学力を付けていくか考えたい」と話しています。

	小学6年			中学3年		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国平均	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3
県平均	65	62	63	68	49	49
宇城	67	64	64	68	49	48
玉名	67	64	66	67	46	47
菊池	65	61	63	68	48	49
阿蘇	65	61	66	68	48	51
上益城	61	58	60	67	45	48
八代	62	60	61	67	46	48
芦北	61	57	61	68	47	48
球磨	64	61	63	67	50	48
天草	65	64	66	69	49	48
山鹿市	69	64	70	70	47	50
熊本市	65.5 66.4	62	62	68	50	49

※県内は小教点第1位を四捨五入網かけは全国平均を上回った項目。熊本市の小学6年国語は全国平均並みだが、上回るかどうかは不明

本日別紙で本校の「生徒の学力の現状について」をお配りしています。保護者の皆さまとともに生徒の学力向上に取り組んでいきたいと考えています。

じんけん 人権について考えています

学校では人権について生徒と一緒に考えています。
さまざまな人権についての課題がありますが、先日、全国の
人権擁護委員連合会から「種をまこう」という作品集が届きました。作品を紹介していきます。

「共生社会に生きる」

夏休みのある日、部活のサッカーを終え、友達の悠月君と自転車に乗って帰る途中のことだった。「C#%@\$!」「&~%*Σ・・・」歩道脇に自転車を止めて休んでいる外国人から声を掛けられた。僕たちは少し通り越して自転車を止め、振り返ってみた。二人連れの若者が僕たちに話しかけている。しかし、それが何語なのか、何を言っているのか僕たちは全く分からなかった。さらに二人とも体が大きく、一人はサングラスをかけている。見た目というか、その場の雰囲気は怖い感じがした。でも、声を掛けられたので、ドキドキしながらも僕たちは二人に近づいて行った。

僕の住む町は、焼き物の名産地であり、全国的にも名の知れた稲荷神社や有名な画家の作品が数多く展示されている美術館もある。ガイドブックでも人気のスポットとして紹介されている。海外からの観光客が増えているので、この二人も観光客なのかなと思いながら、僕たちはこわごわ近づき小さな声で、「何か用ですか」と尋ねた。すると、一人が道路マップとカードケースを差し出してきた。そのカードには、日本語で国籍はフランス、彼らの名前、年齢、連絡先、語学はフランス語と英語を少し、旅行目的は神社と美術館巡りと書かれていた。それを見て身構えていた僕たちは、ホッと緊張が解けていくのが分かった。すると相手は続けて道路マップを広げて指を指し、ここへの行き方を教えてくれという仕草をした。しかし、そのマップはダウンロードしたもので、外国語で書かれており見づらく僕たちには理解できなかった。

カードに書かれていたのでおそらく神社か美術館だろうとは思ったが、よく分からない。悠月君と顔を見合せていると、もう一人の彼がいかにお腹が空いているんだろうという仕草で LUNCH HUNGRY と叫んだ。この言葉だけは僕たちにも分かる。悠月君が何かひらめいたようで、「陽向君、道の駅に連れて行こう。自転車で十五分くらいかかるけど美術館の方向だし、あそこだったら観光案内も出来る。それに、レストランでいろいろ食べられるよ。」なるほど、いい考えだ。無我夢中で二人に、「Guide MITINOEKI together」と言うと「OK OK」と嬉しそうな声が返ってきた。通じたことが嬉しくてすぐに向かおうとした。すると、サングラスを外した彼が、自転車のカゴにあったサッカーボールを指して貸してくれというようなアピール。悠月君が渡すと彼は、「France Worldcup Champion!」と、笑顔で叫びながらリフティングを始めたのだった。それも足から頭、さらには肩とプロのリフティングのように上手で、僕たちは感動して拍手を送った。彼が「Another large area go」と言った。

道の駅までの間、僕たちは名前の交換をした。サングラスの彼がアドン、もう一人がルイ、お互いを名前で呼び合うと初対面とは思えないほどの親近感を覚えた。彼ら二人が同じ大学でサッカー部に所属する友達同士だということも分かった。そして道の駅で食事を終えると広場へ移動した。そこで三十分以上もパス回しなど素晴らしいテクニックを見せてくれた。そして、丁寧なアドバイスもしてくれた。別れ際には四人で写真を撮り、僕がマーキングした道路地図を手渡すと堅い握手をしてくれた。最後には僕たちの肩をボンとたたいて、「Take it easy」と、声をかけて自転車で走り去って行ったのだ。

後日、ルイから写真が送られてきた。この写真は僕の宝物だ。僕は今回の出会いで、二つの大きなことを学んだ。一つ目は、言葉が理解できなくても、「応えようとする勇気」が必要だということ。外国の人が困っている時に、声をかけることは、大変な勇気が必要になる。困っている外国人に出会ったら、まず「その人の前に立ち止まる」ことから始めてみよう。外国人との共生の第一歩になる。二つめは、コミュニケーションができる方法を見つけること。例えば、一番のコミュニケーションは笑顔だと思う。「どうしましたか?」という気持ちがあれば、声のトーンやジェスチャーなど身振り手振りでコミュニケーションがとれる。

僕の経験から学んだこの二つの大切なことは、外国と日本の文化交流に向けての大きな力となると思う。今、世界は自分の国だけでなく、他の国の人たちとも「仲良く過ごせたら」という思いが高まっている。まさにオリンピック・パラリンピックの影響が大きい。もし、僕がいつか外国に行くと、困ったとき、そこの国の人が助けてくれたら・・・いや助けてくれなくても、「どうしたの?」という気持ちを感じられたら僕はものすごくうれしと感謝するだろう。この夏の経験を活かして、二つの学んだことを実行したいと思う。それが共生社会の第一歩だから。

